

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的な知識や技能を習得し、課題解決に生かす力の向上
- ②書く・話す活動を通じた思考力・判断力・表現力の向上
- ③主体的に学びに向かい、互いを高め合う力の向上

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員
3年担任：幸路真理

委員
校長：藤山克己
教頭：小竹義和
教務主任：瀬川知絵

校長
藤山克己



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや四則計算については、ある程度の定着が見られる。 ●基礎・基本の定着に個人差があり、配慮の必要な児童がいる。 ●語彙数が少なく、問題を読み取る力や文章を書く力が弱い。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ・言葉が適切に用いて文を書いたり、必要な情報を聞き取って正確に伝えたりすることができる。	・定期的な小テストを行ったり、計算練習等を継続的に行ったりすることで、基礎・基本の定着を図る。 ・分かる授業を目指して教材・教具の提示の仕方等を工夫し、個々の児童に応じた補充的な学習指導を行う。 ・読書の機会を設けたり、オリジナル単語帳等を活用したりして、言語への興味関心を高めることで、語彙を増やしていけるようにする。	清掃後の15分間を「Vスキルの時間」として全校体制で取り組むことで、児童が落ち着いて午後からの学習に向かえるようになっているので、引き続き取り組む。	・Vスキルの時間を使って小テストを定期的に行い、基礎・基本の定着を図ったが、定着度に個人差があった。 ・デジタル教科書や実物投影機を使い、視覚的に分かりやすい授業を心がけた。 ・辞書を活用して言葉の意味を調べることを通して、言語への興味を高めることができた。	辞書やオリジナル単語帳を使って身に付けた言葉を活用して書いたり話したりする活動を多く取り入れる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分が体験したことについては、進んで書いたり話したりすることができ、伝える力を身に付けてきている。 ●課題解決のために必要な情報を読み取って活用する力や、筋道立てて自分の考えを説明する力が不足している。	・学習課題に対して見通しをもち、自分の考えや意見を明確にすることができる。 ・表やグラフなどから必要な情報を読み取り、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを表現することができる。	・ペア学習やグループ学習、ホワイトボードを使った授業を行い、自分の考えを説明する場面を多く設定する。 ・Vスキルの学習内容を精査し、問題を読み取る活用型の課題に取り組む時間を増やす。 ・教材の提示の仕方を工夫し、子供の疑問を学習のめあてとする学習展開を行う。	児童全員に一枚ずつホワイトボードを配布し、児童が自分の考えをまとめたり発表したりする機会をもっと設けるようにする。	・コロナ対策のためにグループ学習は控えたが、各教科で学習の成果を発表する機会を設け、自分の考えを説明する場面を多く設定することができた。 ・Vスキルの時間には、応用問題や活動型の課題を取り入れることができた。	児童の疑問を学習のめあてとする活動を取り入れることは十分ではなかったため、児童の発想を大切にし、単元を通じた学習の展開に努める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にまじめに取り組み、方法や手順が分かる学習には意欲的に取り組める。 ●自分から課題を見つけて学習しようとする意欲が乏しい。 ●家庭での読書習慣が身に付いておらず、読書時間が少ない。	・自ら課題を見つけて学習に取り組んだり、友達の意見や他の手立てをもとにして考え直したりすることで、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。 ・本を読む楽しさを感じることで、進んで読書をする習慣を身に付けることができる。	・異学年交流の場と学習発表の場を結びつけ、相手意識をもって計画的に行うようにする。 ・活用型の問題に取り組む機会を多く取り入れるために、プリントなどを多数用意しておき、自己選択して学習を進められるようにする。 ・学校図書を充実させて本の紹介をしたり、ペア読書や読み聞かせの機会をもったりすることで、読書意欲を高める。	朝の読書の時間になると児童が進んで本を読み始め、読書をするのが習慣として定着している。学校の本を家庭に持ち帰ったり家庭で購入した本を学校に持って来たりして、意欲的に読書をする姿も見られる。	・なかよし班活動やクリーン活動といった異学年交流の場を計画的に設定したり、生活科や総合的な学習の時間に異学年を対象とした発表を行ったりすることができた。 ・読解問題に取り組む機会を設けることができた。 ・コロナ禍のため、ペア学習や読み聞かせの機会は少なかったが、なかよし班活動の中に取り入れることはできた。	年間指導計画に異学年交流活動を具体的に記述し、計画的に実施できるようにする。 児童が自ら選択して学習に取り組めるように、タブレットを用いて行うことができる自主学習教材を多数準備しておく。

令和2年度 学力向上ロードマップ

